

177
聖徒伝 43

「神との 和解を求めて」

民数記15～20章

荒野の40年・不信仰の放浪者

民数記③

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 捧げ物についての補則 15章

II. 最悪の反逆 16～17章

III. 幕屋での奉仕・補則 18～19章

IV. モーセの失敗 メリバ事件 20章

V. まとめと適用

メシアが歌ったモーセの幸い
マタイ5章の恵みを味わう



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

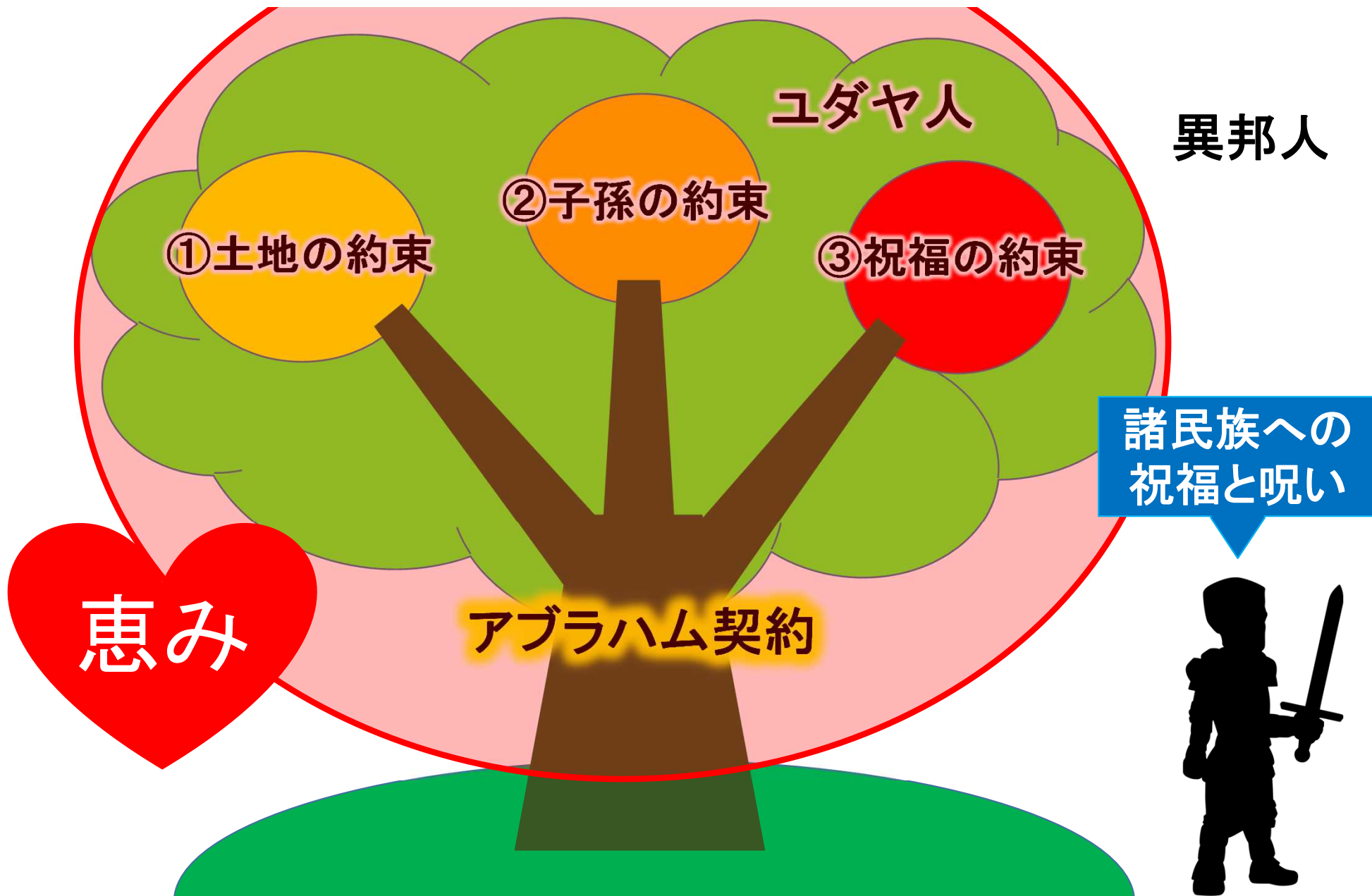
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

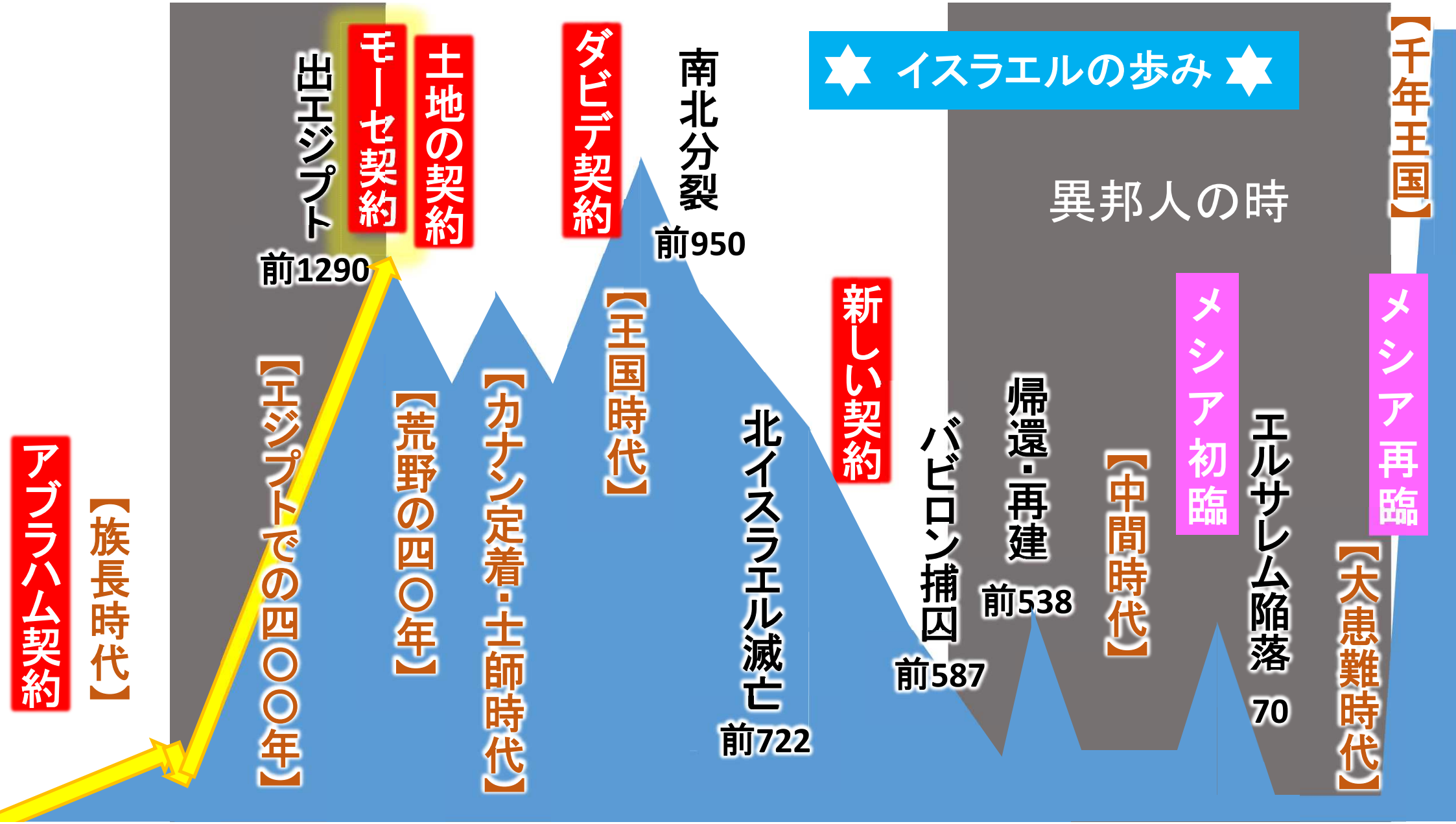
- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂

新しい契約

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

★ イスラエルの歩み ★

【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

■シナイ山での律法授与

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

3ヶ月

■幕屋建設

(律法の学び?!)

6ヶ月

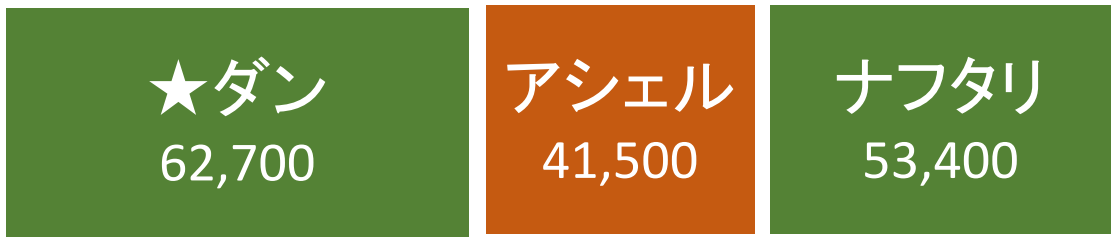
■点呼・出発 実践的訓練!!

1ヶ月後



【イスラエル全部族の隊列】

北 ↑ 157,600人



ゲルシヨン



アロン
モーセ



東 → 186,400人

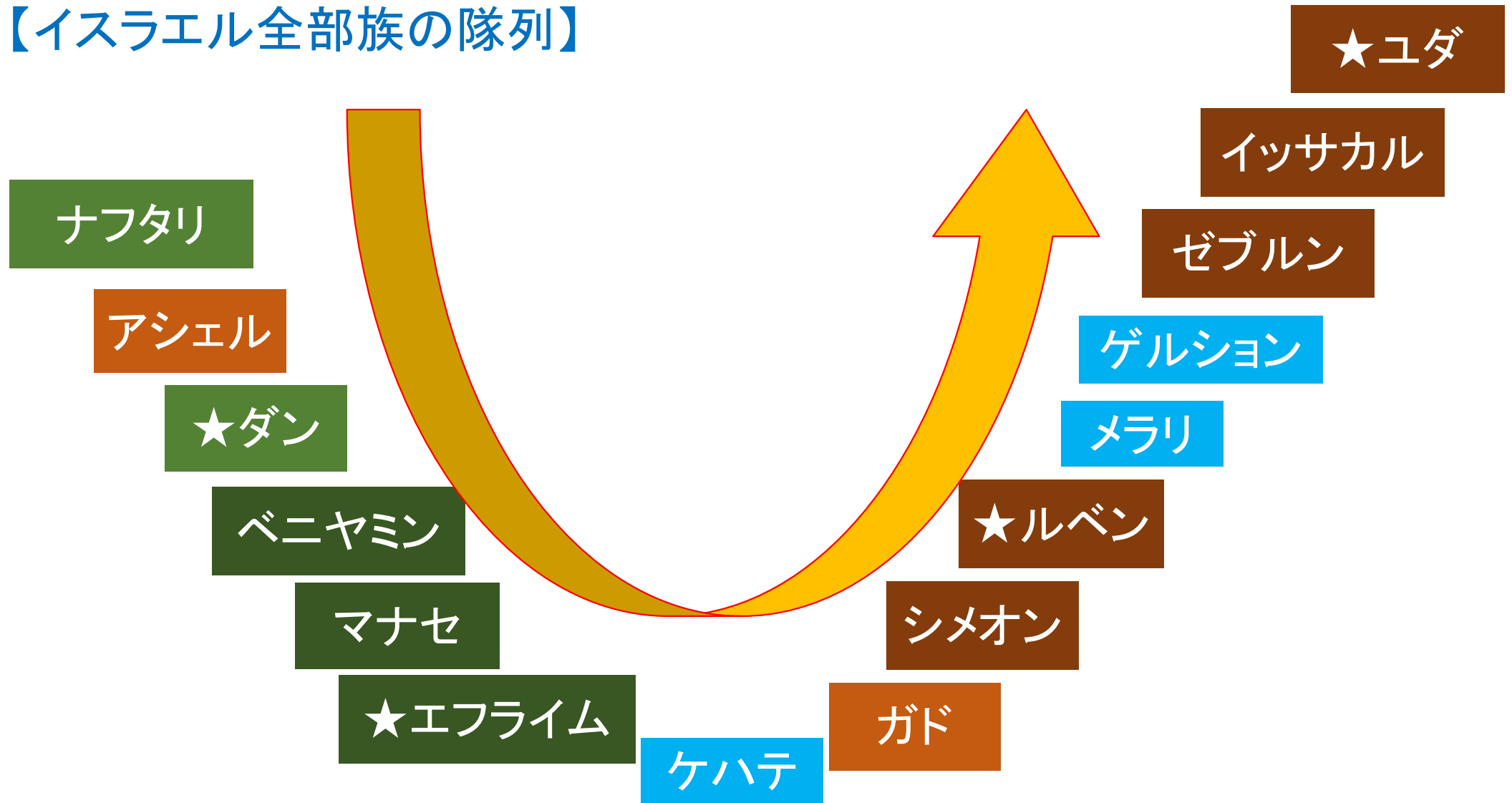
西 ← 108,100人



南 ↓ 151,450人

- レアの子
- レア(ジルパ)の子
- ラケルの子
- ラケル(ビルハ)の子

【イスラエル全部族の隊列】



【カデシュ・バルネア事件】 民14章

- 12部族の代表12人が偵察に派遣され、40日後、土地の豊かな産物を手に帰還。
- しかし、彼らは、堅固な城壁に住む強靱なカナン人への恐怖に捕らわれていた。
- 民を巻き込んで、モーセへの不満が爆発。エジプトに帰ろうと叫ぶ民に、神の裁きが!!
- この世代の民は、40年荒野を放浪し、死に絶えることとなった。
- 神を信頼したヨシュアとカレブだけが、約束の地に入ることをゆるされた。



I. ささげ物についての補則

民数記15章



【律法の補則の前提】 民数記15:1～3

【主】はモーセにこう告げられた。「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたに与えて住ませる地にあなたがたが入り、食物のささげ物*を【主】に献げるとき

■ その世代は責任を負わされ、荒野で死に絶えるが、イスラエルに対する約束は、生きている。

➡ アブラハム契約による無条件の神の約束ゆえ

* 食物のささげ物 ...麦、ぶどう酒、オリーブ油など、動物の犠牲に添える、約束の地の産物のささげ物。



【ささげ物の規定が教えるもの】 民数記15:1～21

■ 40年の荒野の放浪が確定した、その後に、
約束の地に入った後のことが告げられる。

■ アブラハム契約の土地の約束は生きている
⇒アブラハム契約は、無条件の永遠の契約。

■ この世代は裁かれても、
イスラエルへの約束は、変わらず有効である。

神の恵みは、神の確かな契約に基づく恵み



【故意の罪とその結果】 民数記15:22～36

- 過ちによる罪には、贖いの道が示されたが、
知っていて故意に罪を犯した者には、厳しい裁きが。
- 安息日に安息せず、薪を集めていた者がいた。
神は、石で打ち殺すよう命じられた。
- 安息日は、7つの例祭よりも重要とされた。
➡イスラエルを他と区別する生命線。重大なしるし。

“ユダヤ人が安息日を守ったのではなく、
安息日がユダヤ人を守ったのだ” (ユダヤの格言)



【着物の房】 民数記15:37～41

■ 衣服の裾の四隅に、房と青いひもをつける。

① 主のすべての命令を思い起こし、行うため。

② 淫らなこと(偶像礼拝・姦淫)から離れるため。

③ 神に対して聖なる者となるため。

➡ 房は、神の民としての自覚を促すもの。

※ 長血を患う女は、イエスの服の房をつかんだ。

(マルコ5:27)

➡ イスラエルとしての悔い改めの証しであり、
イエスこそ、律法が示すメシアだという告白。



Ⅱ. 最悪の反逆

民数記16～17章



【最大の反逆事件】 民数記16:1～3

■ 反逆者たち

- ① レビの子、ケハテの子、コラ ... 首謀者
- ② ルベン族、エリアブの子ダダンとアビラム
- ③ 指導者たち250人

(※ルベンは、父ヤコブに背いて長子権を取り上げられ、
レビは、父を出し抜いて、敵に私的な報復をした。)
(※ケハテ族は、祭具を運ぶ奉仕を担った。)



■ 反逆の理由

- ① 全イスラエルが聖である。
- ② 主は全会衆の中にいる。
- ② なぜ、モーセとアロンが、主の会衆の上に立つのか。

本質は、支配欲による権力争い
正真正銘の神への反逆

【モーセからの提案】 民数記16:4～11

■ 火皿を取り、香を盛るよう提案したモーセ。

➡ 祭司の務めをやってみる、ということ。

■ コラは、モーセに反逆させようとして、
全会衆を天幕の前に集めた。

■ 主の栄光が現れ、イスラエルへの裁きを告げた。
モーセのとりなしにより、民の滅びは免れた。

■ 主は、コラ、ダタン、アビラムの住まいから、
引き下がるよう命じられた。



【神の裁き】 民数記16:31～33

モーセがこれらのことばをみな言い終えるやいなや、
彼らの足もとの地面が割れた。

地は口を開けて、彼らとその家族、またコラに属する
すべての者と、すべての所有物を飲み込んだ。

彼らと彼らに属する者はみな、生きたまま、よみに下っ
た。地は彼らを包み、彼らは集会の中から滅び失せた。

■ 香をささげた共謀者250人は、主の火で焼かれた。

■ コラの子らは、反逆に加わらなかった。(民26:11)

➡ コラ族は、後に礼拝の賛歌などの奉仕を務める。

(詩篇42,44～49,84～85篇)



故意の罪の極み

信じる者には希望がある

【つづく民の反逆】 民数記16:41～50

■ 翌日、全会衆は、モーセとアロンを責め立てた。

■ 主の栄光が現れ、裁きが下され始めた。

➡モーセはアロンに命じ、裁きの最前線、
生者と死者の境で、香を焚かせた。

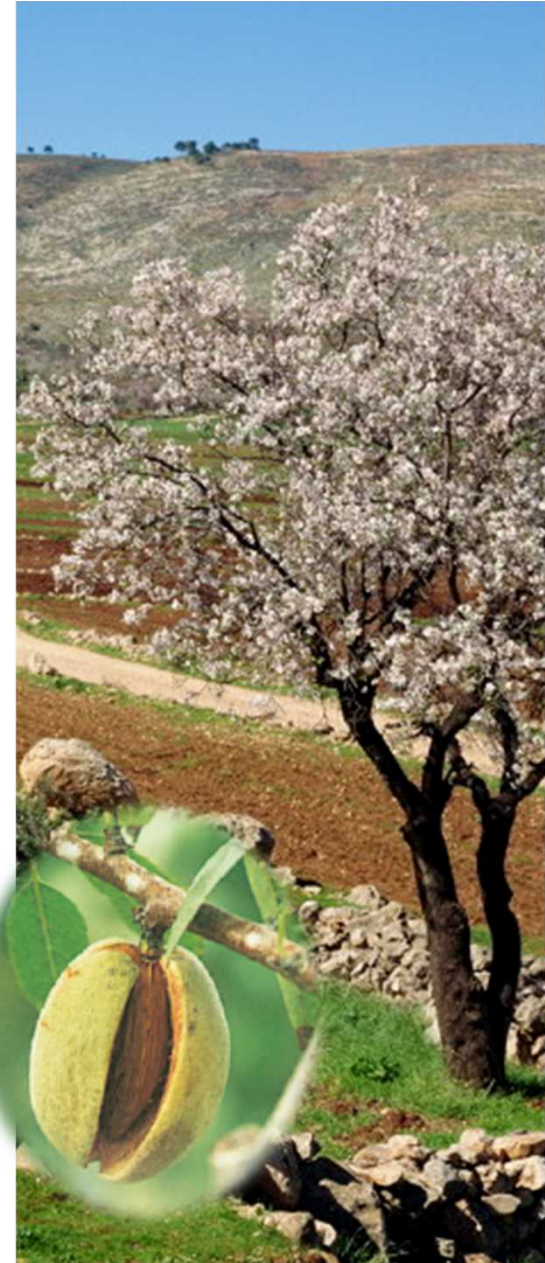
■ アロンが、大祭司のとりなしの使命を果たした時、
神の裁きはやんだ。14,700人が死んだ。

真の大祭司イエスこそ、完全な罪の赦しをもたらされる方



【アロンの杖】 民数記17:1～13

- 主は、12部族の族長から一本ずつ杖を取られた。
- アロンの杖だけが、芽を出し、花咲き、翌日には、アーモンドの実をつけた。
- アロンの祭司職の正当性が神によって示された。
 - ① アロンの家系だけが祭司を務める
 - ② レビ人だけが、幕屋の奉仕を務める。
- 人は、神の定めた仲介者なしに、神に近づけない。
→ 真の大祭司イエスが、神との完全な和解をもたらす。



Ⅲ. 幕屋での奉仕・補則

民数記18～19章



【賜物としての祭司の使命】 民数記18:1～32

■ 主は、直接アロンに語りかけられた。

- ① アロンの家系のみが、祭司を務めること。
- ② その責任として“咎を負わなければならない”
- ③ 奉仕者であるレビ人が、賜物とされる。
➡レビ人は、祭司を補助する奉仕を担う。

■ 民のささげ物から、祭司の報酬が定められた。

- ➡イスラエルの信仰の状態に伴って、祭司の報酬も変わってくるということ。
- ➡祭司を見れば、民の信仰が分かる!!



【赤い雌牛】 民数記19:1～10

- 常に身近にあった死。死体に触れる汚れ。
(※コラ事件では、1万7千人が死亡。処理にあたった人々が汚れて外に出たら、宿営がからっぽに!!)
- 汚れを除くために赤い雌牛が屠られ、
その灰と湧き水から、きよめの水がつくられた。
- きよめの儀式は、人の罪の現実を教える視覚教材。
➡細かな手順と厳密さが、人の罪の深さを浮き彫りに!!
- 儀式は、人間の良心まできよめるものではないことも、
イスラエルは、体験的に思い知らされていっただろう。



IV. モーセの失敗 メリバ事件

民数記20章



【ミリアムの死】 民数記20:1

イスラエルの全会衆は、第一の月にツインの荒野に入った。民はカデシュ*にとどまった。ミリアムはそこで死んで葬られた。

■ 40年目の1月。放浪の発端となったカデシュ*に、イスラエルは再び戻ってきた。

■ その地で、モーセの姉ミリアムは死んだ。



【またしても繰り返される光景】 民数記20:2～5

そこには、会衆のための水がなかった。彼らは集まってモーセとアロンに逆らった。民はモーセと争って言った。「ああ、われわれの兄弟たちが【主】の前で死んだとき、われわれも死んでいたらよかったのに。

なぜ、あなたがたは【主】の集会をこの荒野に引き入れ、われわれと、われわれの家畜をここで死なせようとするのか。なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上り、このひどい場所に引き入れたのか。ここは穀物も、いちじくも、ぶどうも、ざくろも育つような場所ではない。そのうえ、飲み水さえない。」

この道はいつか来た道？ 繰り返されるデジャブー



【モーセへの主の命令】 民数記20:6～8

モーセとアロンは集会の前から去り、会見の天幕の入り口にやって来て、ひれ伏した。すると【主】の栄光が彼らに現れた。

【主】はモーセに告げられた。「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」

■水を与えるための神の命令は、「**岩に命じること!!**」

→モーセの役目は、命令通り、正確に行うこと。



【モーセの過ち】 民数記20:9～11

そこでモーセは、主が彼に命じられたとおりに、【主】の前から杖を取った。モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれが*あなたがたのために水を出さなければならないのか。」

モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。*すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。

* 水を出させるのは、我々ではなく、神ご自身。

* 神の命令は、“岩に命じること!!”



【モーセとアロンへの罰】 民数記20:12～13

しかし、【主】はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ている前でわたしが聖であることを現さなかった。それゆえ、あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」

これがメリバ*の水である。イスラエルの子らが【主】と争った*場所であり、主はご自分が聖であることを彼らのうちに示されたのである。

* カデシュのメリバ(申32:51) ...出17:7とは別の地。

* 神は聖 ...誰も、神のきよさを侵すことはできない。

➡ 神の命令は絶対、かけらも損なうことはゆるされない



【再びメリバで】 民20章

★なぜモーセは、拒まれたのか？

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい』」ヨハ 7:37

■「岩」は、「メシア」、キリストを示す。

■岩を打つ → キリストの十字架の死

■岩から水が出る → 聖霊降臨

※キリストの十字架の死は、一度きりで、完全。
しかし、モーセは、命じるだけでよかったのに
さらに二度も、岩(キリスト)を打ってしまった。



【エドムの拒絶・迂回】民20:14～21

- カデシュから、直接北上せず、約束の西側から約束の地を目指したイスラエル。
- そこには、アブラハムの子孫、エサウの子孫、エドム人が住んでいた。
 - ➡ エサウは、ヤコブ(イスラエル)の兄弟。
- しかし、エドムは、イスラエルが領地を通過することを堅く拒んだ。
 - ➡ この後も、エドムは、ことごとく敵対した。
 - エドムの末裔、イドマヤ人の子孫が、ヘロデ大王。



【イスラエル 荒野の40年】

エジプト

カナン

カデシュ・バルネア

エドム

シナイ

シナイ山

ネボ山

エジプト→カナン

10日間の距離を

40年かかった!!

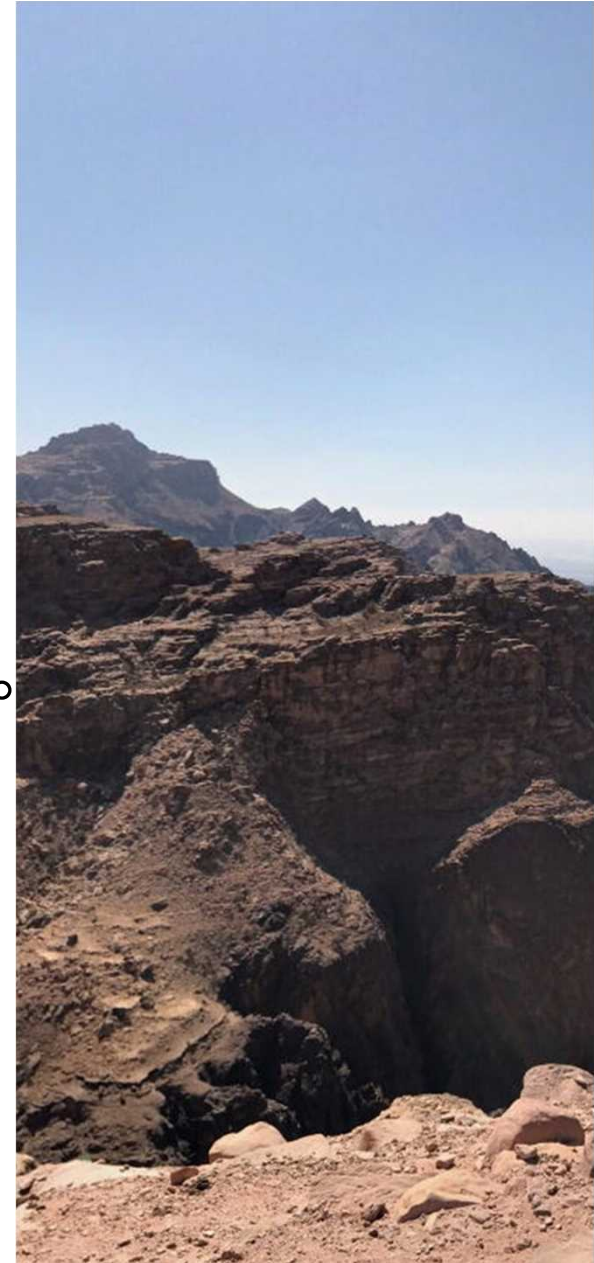
神に反抗したために!!

es. Courtesy of MapQuest
OpenStreetMap contributors, CC-BY-SA

【アロンの死】 民数記20:22～29

- エドムとの国境のホル山に、モーセはアロンと、その子エリアザルを連れて、上った。
- アロンの服は、エリアザルへ。大祭司が継承された。
- アロンは、山頂で死んだ。民は、30日間、喪に服した。
- 40年目、ミリアムが死に、アロンが死んだ。
モーセすらも、約束の地に入ることを拒まれた。
➡ 律法は、私たちに、罪の現実を突きつける!!

私たちの救いはどこにあるのか？



IV. まとめと適用

メシアが詠ったモーセの幸い
マタイ5章の恵みを味わう



【モーセの救いは、どこにあるのか？】

■ 誰よりも謙遜な者だったモーセ。

繰り返される民の反抗を前に、何度も主にひれ伏し、必死にとりなした。

■ カデシュのメリバの出来事は、ただ一度の過ちだった。

神の命令に反し、怒りにまかせて、岩を二度打ちたたいた。

この罪のゆえ、モーセは、約束の地に入ることを拒まれた。

■ あまりにも厳しすぎる？ しかし、それが、神が聖であるということ。

どんなに些細な罪も、聖なる神は、受け入れられない。

■ モーセですら、約束の地に入れないなら、希望はどこにあるのか？

【モーセを支えた、神の契約】

- 祝福と呪いをもたらす律法の土台には、アブラハム契約がある。
神が一方的にアブラハムと子孫と結んだ無条件契約。
この契約のゆえ、イスラエルは、守られ、導かれていく。
- 神の約束は、必ず完全に成就する。
神のイスラエルが、約束の地を完全に相続する時が来る。
それは、再臨されるメシアによって果たされる。
- 繰り返される民の過ちのただ中で、40年の荒野の放浪で、
モーセは、憐れみと愛の神を、知っただろう。
神の約束の確かさゆえの、契約に基づく恵みを味わっただろう。

【モーセの謙遜】 民12:3

「モーセという人は、地の上のだれにもまさって柔和*であった。」

* **柔和** ...アナブ。 **謙遜、貧しい**、とも訳される。

ここでは、“アナブ、アナブ” 二度繰り返される!!

- 誰よりも謙遜で柔和だったモーセ。主の前にひれ伏すモーセは、イスラエルの罪を、自分の罪を、誰よりも深く、自覚させられただろう。
- 約束の地に入ることを拒まれたモーセは、さらに深く、地に這いつくばって、主の前にひれ伏したことだろう。
- 自分の正しさ、自分の正義、自分の潔癖さ、自分の主張... ことごとく打ち砕かれていくのが、信仰者の歩まされる道。
➡ **だから、主イエスは、心の貧しい者は幸いだと宣言された。**

【メシアが詠ったモーセの幸い】 幸い章句 マタイ5:3～12

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。
悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。
柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。
義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。
あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。
心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。
平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。
義のために迫害されている者は幸いです。

天の御国はその人たちのものだからです。

わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、

ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。

喜びなさい。大いに喜びなさい。

天においてあなたがたの報いは大きいのですから。

あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。」

【モーセの希望、私たちの希望】

■ モーセは、永遠の希望を、神の確かな約束に託した。

私たちは、主が約束されたメシアに、すべての希望を託す。

■ 私の罪のために十字架にかけられ、死んでほうむられ、
死を打ち破って復活された主イエスは、今も生きて天におられ、
来たるべき日に、信じる者すべてを御許に挙げられ、
王の王、主の主として、再び来られる。
すべては、回復され、主の栄光に満たされる。

■ 人は、自らの罪を解決できない。世界の破滅を食い止められない。
今こそ、真実の救い主、主イエスの名により、福音を宣言しよう。
主の確かな約束の御言葉を、解き明かしていこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主に従(したが)い歩(あゆ)むとき、わたしたちは、打(う)ち砕(くだ)かれていきます。モーセのように、謙遜(けんそん)な者(もの)としてください。ただ、主の約束(やくそく)だけが、わたしの内(うち)で、確(たし)かなものとされていきますように。御霊(みたま)によって助(たす)けてください。主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」